

第13期第7回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和5年(2023年)4月21日(金)午前10時～正午
 場 所 国立市役所3階 第1会議室
 出席者 山谷会長、山崎副会長、楠田副会長、内海委員、北委員、北村委員、田中委員、長嶋委員、山岸委員(委員は50音順)
 事務局 黒澤生活環境部長、清水ごみ減量課長、吉村清掃係長、大倉環境センター所長、前田清掃係主任、菊次清掃係主任

【議事要旨】

1. 事務局の人事異動について

事務局から令和5年度4月1日付、人事異動を説明した。

2. 第13期国立市ごみ問題審議会の今後のスケジュールについて

資料に基づき、下記スケジュール(案)を事務局から説明し、委員より承認いただいた。
 また、施設見学会として、クリーンセンター多摩川を施設見学することとなった。

○スケジュール(案)

第7回	令和5年4月中旬	・ 今後のスケジュール等について
第8回	令和5年6月下旬	・ 進捗状況の評価 (1) 家庭系ごみの減量化・資源化 1) 発生抑制～ (1) 家庭系ごみの減量化・資源化 3) 直す
第9回	令和5年7月中旬	・ 進捗状況の評価 (1) 家庭系ごみの減量化・資源化 4) 戻す～ (2) 事業系ごみの減量化・資源化
第10回	令和5年9月下旬	・ 進捗状況の評価 (3) 収集・運搬 (4) 中間処理～
第11回	令和5年10月中旬	・ 進捗状況の評価 (5) 最終処分～ (6) 制度、施策の充実等
第12回	令和5年12月上旬	・ 答申案の確認 → 3月に答申の提出

3. 国立市循環型社会形成推進基本計画に定める各施策について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に定める各施策の主な変更点を事務局から説明した。

4. 補足資料について

資料に基づき、令和4年度のごみ量、組成分析、ボトルリサイクルプロジェクト、生ごみ資源化モデル事業等を事務局から説明した。

【山谷会長】補足資料について、皆さまからご意見を伺いたいと思います。

補足資料1について、平成25年と平成29年以降の数字が載っており、比較できるようになっています。なぜ古いデータを付けているのかということですが、平成29年は秋に家庭ごみの有料化がされているため、ごみ収集量（小計）が平成29年の1万6,797トンから、翌年の平成30年の1万5,719トンへ大きく減っていることから、そのことを示したく、データを載せております。

次に、令和元年度と令和2年度を比較していただきますと、事業系ごみの持込量が令和元年度の3,747トンから、翌年の令和2年度の約3,000トンへ大きく減少しております。この理由は事業系ごみ処理手数料を大幅に引き上げたという背景がございます。

また、もう1つは、令和2年度は新型コロナウイルス感染症のピークで事業所の活動が減少したことで、事業ごみが減少し、家庭ごみが増えたという効果も影響しているのではないかと思います。

最後に、令和4年度の総ごみ量が671.7グラムになったとのことですが、最新の環境省のデータでは、集団回収を含み、全国的な数字が901グラムから890グラムに減ったということでした。よって、国立市は全国的なレベルと比較しても、かなり低いということが分かります。

これらを踏まえ、皆さまからご意見いかがでしょうか。

【北村委員】時代や手数料の料金などで、ごみの減り方とかは顕著に出るということを感じました。

【山谷会長】値上げ幅が非常に大きかったということがあると思います。値上げする前はキロ27円だったのが、42円に大幅に上げ、15円も高くなったことにより、ものすごく効果があったのだと思います。手数料改定によって、多摩川衛生組合の構成市4市がほぼ42円程度のところで並んだということになります。

他にも、小平・村山・大和衛生組合もここ数年で値上げをしてきており、これまで20円台であったのが、40円台レベルに上がってきており、多摩地域全体としても、処理原価に近づいてきております。

リサイクルにもお金がかかるので、清掃工場の処理費が安いと燃やしてしまうことになり、なかなかごみが減らない要因の1つになります。

【山岸委員】山谷会長に質問があります。例えば、杉並区とかは、まだ家庭ごみの処理は有料化じゃないと思いますが、なぜそれが可能なのでしょうか。

【山谷会長】23区がどうして有料化が進まないのかというと、区によっては清掃工場がないところもあるので、互いに協力し合って、複数の区にごみを持っていくことがあります。各自自治体がそれぞれの判断で、ごみの有料化とか重要なことというのは行えますが、できれば共同歩調をとりたいとい

う傾向があります。共同歩調を取るには、23の区それぞれで意思疎通がうまく行われていて、共同歩調にまで持っていくという合意形成がなかなか23区の中でもできていないことがあります。

多摩地域は、各市の独立性が高いですが、23区の清掃事業というのは、2000年の4月に各23の区がごみ処理、あるいはリサイクルを行うという権限を得ています。それまでは、東京都清掃局という東京都がやっていたということもあり、共同歩調をとりたがるという傾向があります。

以前、ある区が22の区に対して、アンケート調査を行いました。23区一斉にごみの有料化をした方が良いか、もしくは準備の整った区から先に有料化していくか、というアンケートになりますが、その結果は、ちょうど半分の11の区ずつになりました。

他にも、ごみに関心のある区長が落選したり、高齢化していることも共同歩調を取れていない要因の1つでもあると思います。

【楠田委員】 補足資料を拝見して、大変興味深い数値、統計データだと思いました。持込量のごみは増えたが、総ごみ量が減っているとのことで、市の施策の方向性がうまくいっているということで安心したのが、第一のコメントになります。

ただ、令和4年度と3年度のごみ量の比較を見ると、持込量のほとんどを占めている事業系ごみが、毎月のようにコンスタントに増えているので、手数料の効果が薄れてきているのがあるのではないかと考えています。また、今後コロナの影響がなくなってくると、ごみ量が膨らんでくるリスクがあると思うので、この点を現場ではどのように見通しされておりますでしょうか。また、家庭ごみの持込量も活動量が活発になり、増えてくる危険性はあると考えています。

【事務局】 委員がおっしゃるとおり、まだまだ家庭系ごみも、事業系ごみも減量していく必要があるものだと認識しております。まず事業系については、コロナでここ2、3年間は、大変事業者の皆さんも苦しんでいたところがありますので、そこが戻ってきたという一定の市としての良いところと、反面、ごみの量が増えてきているところがあります。増えれば増えるほど、またマナーも良くないところもありますので、そういった細かいところから、まず指導とかをやりながら、減量に努めていきたいと思います。

家庭系ごみについても、まだまだ26市の中では中間の位置でしかないと思っています。まだまだ積極的にいろんな面からアプローチをかけて、ごみ減量していく、資源化できるものは資源化していく、先進市の事例とかも見習いながら、できることを探していきたいと思っています。

【山崎委員】 組成分析について、具体的にどのようにサンプリングして、分析されたかということについてお聞きしたいです。また、実際、市民がかなり分別を誤ってしまっていることもあると思いますが、そういう分別できていないものも含めて、どういう状況だったかというのを教えていただきたいです。

【事務局】 まず、サンプリングの方法というところですが、こちらは業者に依頼しまして、決まった日に持ち込んでいるごみの中身を開けてサンプリング調査というものをしております。それを昨年度は6月と、8月と、1月に3回実施しています。例えば、プラスチックというところで言いますと、プラスチック類の中で、例えば、昨年度は可燃ごみが3.68%混じっているということになり、そういった点が分別できてないということが、このデータから分かるという内容になっています。

【山崎委員】 ごみの組成というのは、各家庭によって、あるいは地域によってもかなりばらつきがあると思うので、信憑性の高い分析データを得るには、平均的なものをとるためにかなりの量をサンプリングしなくちゃいけないのではないのか、ということが懸念事項だったのと、実際にこのデータの

中には、もう分別をちゃんとできているものも、できていないものも、全部一緒くたにして、きれいにそれぞれの項目について質・量分析をされたのかというのが知りたいです。

【事務局】こちらで決めた30世帯から40世帯のごみ袋を集めます。その全部の中を見るわけにいかないで、一部の中を分析して出したものがこちらのデータになります。

【山岸委員】この世帯で調査をやらせていただくということはお伝えしているのでしょうか。

【事務局】いわゆる無作為という形で、業者に委託をしまして、日にちを設定し、サンプル調査しており、収集された方々は知ることはありません。

【山岸委員】普段からちゃんとごみの分別できているのかを考えておりますが、こういう機会があるのであれば、「ここ、ちょっと違いますよ」と正しいごみの出し方を教えてもらえたら、直せる機会があるのではないかと思います。

【山岸委員】気がついたらテストを受けさせられていて、結果は出ているけど、何のフィードバックもない感じの「もやもや」があるので、テストをしていたのであれば、その結果を教えて欲しい気持ちにはなりました。「ここが良くて、ここはもうちょっとだね」みたいになると良いと思いました。

【山谷会長】続いて、シャンプーボトル等の分別回収について、こちらについてご意見いかがでしょうか。

【長嶋委員】私はレトルトとかの入れ物に入っているものは、入れ物が終わると、とにかく泡が出なくなるまで水道で洗って、綺麗にしてという意識があります。洗剤は10回ぐらい洗っても泡が出てくるので、水道代もかかります。

【山谷会長】プラスチックの選別工場では、まず粉碎をして、それから洗浄を、物すごい高压洗浄でやっていますが、ごみとして出されるときには、10回までは行かなくても、ある程度きれいにして出していただかないと、ほかのごみにも汚れが移ったりするので、綺麗にして出しいただくことが非常に重要ですね。

【長嶋委員】回収ボックスの設置箇所は、一部だけじゃなくて、結構いろんな場所にあるので、出しやすいなと思いました。

【内海委員】引っ越しして別の市にありますが、回収ボックスを量販店で見ました。お店でやっていると、買い物のついでに持って行けるので、回収の拠点の場所を増やせると良いと思いました。また、他県に出かけたときに、飲んだカップを回収しているのも見たことがあり、そういった回収の品目も増やせると良いと思いました。

【山谷会長】その他、ご意見ございますでしょうか。

【山岸委員】今日、感じたことですが、ごみ収集車から「選挙にいきましょう」のような音声が流れていて、その使い方は非常に良いなと思いました。

【北委員】前回、私が印象的だったのは、市長がかなりごみ行政に詳しくて、すごい御意見を持っておられたので、市長を含めて、未来の国立市、もしくは多摩地域のごみ行政について、話す機会があると良いと感じました。

また、昨年の実績を今年レビューする、振り返るという審議会の評価の流れになっていると思いますが、例えば、今後、環境教育をもっと普及させるために、環境センターに何かを設置するとか、あとは、今実施されている生ごみの削減をもっと大幅にするのかというように、3年、5年ぐらいで計画して、実施していかないといけないようなものを、今年は聞かせていただきたいと考えています。

【北村委員】今度6月4日に旭通りのジューンフェスタというお祭りをします。そこに、ごみ減量課

のブースを出してもらおうということになり、ごみ減量課にお声をおかけしたら、出していただくことになりました。そういったところで、先程のごみの分別の話も含めやりますので、ぜひ声をかけて参加してください。

【山岸委員】審議員の任期が終了しても、委員の同士のネットワークが継続できたら良いと感じました。

【田中委員】大学通りで、5月20日の土曜日に、リサイクルガレージセールをやります。

5. その他

(1) 日程について

第8回は令和5年6月23日（金曜日）10時、

第9回は令和5年7月24日（月曜日）10時から行うこととした。

— 了 —